

## 鳥取県立美術館のめざす姿をあらわすことば“OPENNESS！”発表

概要	<ul style="list-style-type: none"><li>鳥取県教育委員会と鳥取県立美術館パートナーズ株式会社（特別目的会社：SPC）は、<b>鳥取県立美術館のめざす姿を示すブランディングワードを、“OPENNESS！”</b>としたことをご案内申し上げます。</li><li>鳥取県立美術館は「未来を“つくる”美術館」をコンセプトに掲げ、国指定史跡・大御堂廃寺跡を望む開かれた建設地では建設工事が進み、今年度もアートを通じた学びを支援するアート・ラーニング・ラボ（通称A.L.L.）の試行事業や、「県民立美術館」を実現すべく建設現場見学会や県民への説明会、県立美術館の使い方を意見交換する対話会、公募事業などの機会をつくり、開館準備期から多くの方とともに楽しみ“つくる”しくみで推進しています。</li><li>県立美術館事業への関心が高まる中、より多くの方に<b>県立美術館の目指す姿を共有し、愛着を持っていただくため</b>のブランディングワードを設定することで、さらなる全県的な開館への機運醸成を図ります。</li><li>ブランディングワードは県の学芸員・運営事業者を中心に複数回議論を重ね候補案を絞り、県立美術館の建築・事業・立地特性にも共通した<b>開放性や寛容性を最も端的に表す“OPENNESS！”に決めました。</b> ※OPENNESS!に決定に至る背景については、別添資料参照</li><li>“OPENNESS!”は、今後、県立美術館のプレサイトをはじめとした広報媒体等でキャッチフレーズの役割を担い、「未来を“つくる”美術館」「県民立美術館」のコンセプトワードとともに広く使用していきます。</li></ul>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>表記は原則英字。カタカナ表記は「オープンネス」。</li><li>英語訳：①（異なる文化や経験に対して）心が開かれている様、寛容さ ②（情報などの）開示性、③（組織やシステムの）開放性 出展：<a href="https://eow.alc.co.jp/search?q=openness">https://eow.alc.co.jp/search?q=openness</a></li></ul>
参考情報	<ul style="list-style-type: none"><li>鳥取県立美術館は2025年春(令和6年度中)、鳥取県中部・倉吉市に開館予定です。館の整備運営には、民間のノウハウを公共施設の整備運営に活かすPFI手法を導入し、鳥取県とともに、県内企業を含む10社で構成された「鳥取県立美術館パートナーズ株式会社」が整備運営を行っています。地域の方とも対話をしながら、「未来を“つくる”美術館」「私たちの県民立美術館」の実現に向け、2022年3月には開館3年前記念カウントダウンイベントを実施するなど、開館準備を推進しています。</li><li>鳥取県立美術館パートナーズ株式会社 [構成企業]〈代表企業〉大和リース(株)、(株)楨総合計画事務所、(株)竹中工務店、(株)懸樋工務店、三菱電機ビルソリューションズ(株)、山陰リネンサプライ(株)、富士総合警備保障(株)、セコム(株)、アクティオ(株)、(株)丹青社の10社。</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>鳥取県立美術館プレサイト <a href="https://tottori-moa.jp/">https://tottori-moa.jp/</a></li></ul>
別添資料	あり（プレサイト掲載文抜粋、決定に至る背景） ・ なし

【本件に対するお問合せ先】

鳥取県立美術館パートナーズ 広報担当（株式会社丹青社内） 担当：砂川

(Mail) [info@tottori-moa.jp](mailto:info@tottori-moa.jp) (TEL) 080-4165-7269

※迅速な対応ができるよう、できるだけメールでのご連絡をお願いします。



# 鳥取県立美術館

TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM OF ART

# OPENNESS !



2025年春、「未来を“つくる”美術館」が鳥取県に誕生します。

鳥取県立美術館は、50年にわたる鳥取県立博物館美術部門のコレクションと活動を引き継ぎながら、収蔵スペースや常設展示室を拡充し、ワークショップルームの新設や「アートを通じた学び」を支援するアート・ラーニング・ラボ（A.L.L.）等の教育普及部門の充実によって、だれもが芸術文化にいつでも触れることができる環境を整備します。

また、鳥取県ゆかりの優れた美術に加え、広く国内外の優れた美術・文化や、同時代の美術の動向を示す作品の収集を継続的に行うことで、時代とともに成長を続ける魅力的なコレクション形成を図ります。

史跡大御堂廃寺跡に向けて広がる活動空間は、まちとのつながりを生み、フリースペースを多く設けた開放的な大屋根のある建築の下では、多様な人々、アート、文化との出会いと創造性を日常的に促し、おらかに来館者を迎えます。

施設整備・開館準備期においても、美術館づくりの進捗をオープンにし、だれにでも開かれた“ともにつくる”しくみで推進し、地域や文化施設と連携しながら、県内全域にひろがる多彩な事業を展開していきます。

別添資料1

1

# 鳥取県立美術館

TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM OF ART

# OPENNESS !



## 選定の背景

- 鳥取県立美術館の特徴(立地・建築・事業)に共通する開放的なイメージであり、目指していく方向性を端的に表現している。
- 多義性があり、受け手側の解釈を限定しない、美術が持つ本来の役割にも添う。
- 未来を感じさせる印象と開館（OPEN）を掛け合わせ
- 誰にも開かれた、また、ひとりひとりの“あなたに”開かれている。
- これからの時代に求められていること。

- 国指定史跡・大御堂廃寺跡を望む開放的な立地
- 1～3階まで無料で楽しめるゾーンが多く、屋外空間も豊かな開放性の高い建築
- 開放的な建築がまちとのつながりを生み、美術館をまちにひろげる
- 美術の鑑賞機会をひろげる(常設化)
- コレクションが拡充する
- アートを通じた学びを支援する(美術の解釈をひろげる)
- これからの鳥取県を担う若い世代への美術鑑賞機会の拡充
- 美術が価値観をひろげる
- 美術館事業の情報を検討段階から公開。美術館づくりに公募をはじめ、県民や広く多くの方に参加しやすいしくみで推進
- 県立博物館美術部門での50年の活動を踏まえた、鳥取県の未来を“つくる”時間軸のひろがり
- どこまで開かれた美術館となりえるかという、新たな挑戦でもある。

別添資料1

2